

自 平成22年4月 1日  
至 平成23年3月31日

## 平成22年度事業報告書

〒104-0045 東京都中央区築地3-7-5

財団法人 **全国青少年教化協議会**

# 平成22年度事業報告

自 平成22年4月01日  
至 平成23年3月31日

## I 教化事業（公益目的事業1）

### 1 青少年教化推進事業

#### （1）仏教子ども会活動の推進事業

##### ①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

##### ②成道会全国こども大会の開催推進

平成22年12月8日前後の日曜日を中心に全国約90会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約8,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話など）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）など多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル及び消しゴム（読売新聞東京本社、日本テレビ放送網からの助成品）を送付、青少協を通じて各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞東京本社、日本テレビ放送網

#### （2）青少年教化研修会等の開催事業

##### ①「第1回仏教教化事例発表大会」の開催

全国におよそ7万8千あるといわれるお寺。お寺がその規模や地域性に応じて、人びとに喜んでいただける活動を行うならば、ともに同じ社会を生きる人の支えとなることができるのではないだろうか。そこで臨床仏教研究所との共催として、青少幼年教化活動をはじめ、お寺の内外で公益的活動に積極的に取り組んでおられる僧侶や寺院関係者に活動内容や理念、具体的方策等をご発表いただき、今後の寺院のあり方を模索する方々のご参考としていただく発表大会を開催した。また、併せて交流会を開催し、活動者や関心をお持ちの方々相互の意見交換の場を設けた。

※日時＝平成22年10月5日（火）

※会場＝曹洞宗壇信徒会館（東京グランドホテル）

- ※内 容＝○基調発題：奈良康明（臨床仏教研究所理事・駒澤大学名誉教授）  
○分科会（教化事例発表・第Ⅰ会場～第Ⅲ会場、発表者計27名）  
○全体会・総括 ○交流会 ※参加者約150名

### （3）ネットワーク拡充事業

#### ①青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

##### A) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校など青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を、聞き取り調査した。

##### B) 不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集

てらネットENのネットワーク拡充に向け、不登校・ひきこもりの問題に取り組む寺院および民間団体に関する情報収集を、対面、インターネット、電話・刊行物を通じて行った。

##### C) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

各仏教系大学の児童研究会などを中心に、全青協の案内、研修会の案内などを送付した。また、サークル役員と日曜学校・子ども会の新たな展開方法について検討した。

#### ②府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

##### A) 「府県・地区青少年教化協議会代表者会議」の開催

本会と青少協との情報交換、教化活動の推進を図るため、代表者会議を開催した。

※日 時＝平成23年3月1日（火）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※テーマ＝「各青少協の活動報告、今後の各青少協の活動の活発化と継承について」

※参加青少協＝静岡県東部、大阪府、香川県、滋賀県、山口県、福島県、埼玉県（7団体）

##### B) 活動助成

第5回「ほとけさまの絵コンクール」の後援および協賛

大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛を行った。

※ 公募期間＝平成22年12月～23年2月

※ 応募総数＝約200点

※ 選考委員＝久保田聖淳氏ほか

※ 入 賞＝最優秀賞ほか13点

※ 主 催＝大阪府仏教会／大阪青少年教化協議会

※ 後 援＝全国青少年教化協議会ほか

##### C) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業のよみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、職員を出仕させ、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時＝平成22年5月19日（水）

※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

### ③加盟教団との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。また、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

#### A) 講師派遣

平成22年5月22日(土)	浄土宗保育協会関西地区講習会(大阪府)
平成22年6月19日(土)	浄土宗保育協会関東地区研修会(神奈川県)
平成22年7月22日(木)	日本仏教保育協会夏期保育講習会(東京都)
平成22年7月23日(金)	浄土宗保育協会・児童教化連盟東海地区研修会(愛知県)
平成22年8月6日(金)	宮城県仏教幼児教育協会研修会(宮城県)
平成22年8月21日(土)	浄土宗保育協会全国研修会(福島県)
平成22年9月7日(火)	曹洞宗広島県宗務所現職研修会(広島県)
平成22年11月22日(月)	曹洞宗秋田県宗務所研修会(秋田県)
平成22年12月13日(月)	浄土宗東京保育連盟教職員成道会(東京都)
平成23年1月17日(月)	報恩明照会「命とこころの電話相談員」研修会(東京都)
平成23年1月31日(月)	報恩明照会「命とこころの電話相談員」研修会(東京都)
平成23年2月4日(金)	浄土真宗本願寺派東海教区研修会(三重県)
平成23年2月19日(土)	浄土宗北海道地区保育協会教職員研修会(北海道)
平成23年2月21日(月)	報恩明照会「命とこころの電話相談員」研修会(東京都)
平成23年3月28日(月)	報恩明照会「命とこころの電話相談員」研修会(東京都)

#### B) 加盟教団・関係諸団体主催式典等への参加および協力

平成22年6月24日(木)	聖観音宗浅草寺福祉会館50周年記念式典(東京都)
平成22年7月21日(水)	日蓮宗田中日淳元管長告别式(東京都)
平成22年8月4日(水)	比叡山世界宗教者サミット(滋賀県)
平成22年8月4日(水)	曹洞宗主催第44回青少年書道展表彰式(東京都)
平成22年9月16日(木)	日蓮宗管長就任祝賀会(東京都)
平成22年10月8日(金)	浄土門主坪井俊映猯下本葬儀(京都府)
平成22年11月2日(火)	全日本仏教婦人連盟大会(東京都)
平成22年11月13・14日(土・日)	KHJ親の会全国代表者研修会議(東京都)
平成23年1月17日(月)	日本仏教保育協会新年会(東京都)
平成23年1月20日(木)	全日本仏教会新年懇談会(東京都)
平成23年1月26日(水)	全日本仏教婦人連盟修正会(東京都)
平成23年3月23日(水)	浄土宗平和賞選考会(東京都)
平成23年3月26日(土)	シャンティ国際ボランティア会通常総会(東京都)

## (4) 教化活動広報事業

### ①インターネットによる情報収集及び発信

全青協の活動を広く一般に紹介するため、定期的にホームページの内容を更新して、各種

の情報を提供した。

## ②青少年教化活動者の活動内容の紹介

(3) ネットワーク拡充事業①(A) 「青少年教化活動者の活動内容の調査」に伴って取材した内容を、随時『ぴっばら』誌に掲載し紹介した。また、ホームページ上でデータベースとして一般に公開した。

## ③『仏教教育選集』全六巻(国書刊行会)刊行協力

「仏教にもとづく教育」の理念と実践、その歴史と課題を、最新の学術的研究と豊富な実例に基づいて論究した選集の刊行に際し、企画、編集、執筆に関して協力した。全青協の寺子屋活動を実例として、学校教育外における仏教教育の社会的実践のあり方を広く紹介した。

A4版・上製・クロス装・函入・288頁～384頁

第一巻『慈悲の教育』斎藤昭俊著

第二巻『仏教教育の展開』久木幸男編

第三巻『仏教と教育学』和田修二編

第四巻『仏教と道徳』成瀬良徳著

第五巻『仏教教育の実践』神 仁著

第六巻『仏教と生き方』斎藤昭俊著

## ④てらネットENパンフレット・活動報告書・小冊子の作成およびポスターの配布

てらネットENでは、ひきこもりや不登校について当事者および家族からの相談を受け付けてきた。より多くのひきこもりや不登校の問題を抱える当事者および家族に向けての広報をすすめるべく、パンフレットを発行した。

また、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がること、寺院などにおいて当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりについての基礎的な知識や対処法などを掲載した小冊子の作成をし、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

## ⑤てらネットEN自助グループ「シンシア」ブログの運営

ひきこもり当事者の自助グループの活動内容、その他情報をスピーディーにかつ広く公開するため、シンシア専用のブログを作成し随時更新した。

## ⑥「寺子屋ふぁみりあ」のブログおよびホームページの開設

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」を月1回の頻度で開催した。ここでの講演内容を、参加者以外の同じ問題を抱える家族が共有し、問題の解決・軽減の一助となることを期してブログおよびホームページを開設して、講演内容を広く公開した。

## 2 公益活動推進事業

### (1) てらネットEN関連事業の実施

#### ①てらネットEN自助グループ「シンシア」の運営

1) 主にひきこもりやニートの当事者同士が集まり支えあう自助グループを毎月1回開催した。

※日 時＝平成22年4月21日／5月12日／6月16日／7月28日／8月25日／9月29日／10月20日／11月17日／12月22日／平成23年1月19日／2月16日／3月30日（毎月原則第4水曜日に開催）の14時～17時

※会 場＝東京都港区・光明寺

※内 容＝フリートーク・坐禅・念仏・ヨガ・写経等、参加者が主体的に内容を決めていく。

#### 2) 「いっしょに年越し隊2010」の開催

ひきこもりやニートの当事者を支援する一環として、当事者の居場所から社会に踏み出そうとしている若者たちの支援を目的に開催した。

※日 時＝平成22年12月22日（水）

※会 場＝東京都港区・光明寺

※内 容＝アートセラピーの体験、茶話会など。

#### ②不登校・ひきこもり当事者の家族を対象としたセミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ―ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に取り組んできたが、平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセミナーを浅草寺福祉会館との共催で開催した。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、また、仏教的な体験を通じて精神的な安定を得られるように、読教や法話、慈悲の瞑想などを行った。そして、参加者同士によるグループトークにより、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減することもねらった。また、秋には鎌倉・建長寺をお借りしての1泊2日の体験交流会を実施した。尚、講演の内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図ると共に、同様の問題を抱える家族（親）に向けて有益な情報を発信するために公式ホームページを開設した。

※日 時＝平成22年6月12日／7月3日／8月7日／9月11日／10月9日／11月6日／12月11日／平成23年1月22日／2月12日／3月12日（3月12日については東日本大震災により順延）

※会 場＝浅草寺福祉会館、建長寺

※主 催＝本財団、浅草寺福祉会館

※講 師＝吉澤英子（大正大学名誉教授）、菱沼智明（こどもソーシャルワーカー、社会福祉士）池田太郎（訪問サポート士）、石橋悦子（東京都発達障害者支援センター専門相談員）、佐藤由美子（オープンスペース“Be!”主宰）、斎藤潤子（台東区精神障害者地域生活支援センターあさがお職員）、野坂法行（妙巖寺住職・

大多喜南無道場主)

※演題等＝講演：「『人』を育む場づくり～なくてはならない存在感をうる家庭と地域～①『家庭』の機能～あらためて問うてみる～」、講演：「『人』を育む場づくり～なくてはならない存在感をうる家庭と地域～②『家族関係』は社会での生活の営みの土台」、講演：「引きこもることにも価値がある?」、講演：訪問サポートの現場から～当事者の思いを理解するために～、特別プログラム：「喫茶去～自分のところを見つめてみましょう～（浅草寺五重塔院見学と伝法院での散策と坐禅）」、体験交流会（坐禅・読経・写経・法話・境内散策など）、講演：発達障害とひきこもり、講演：「そばにいるからわかること」、講演：「障害とは何か?～見極めの重要性とサポートの必要性～」、講演：「人、みな美しき花あり～仏教の人生観・人間観～」

### ③シンポジウムの開催

寺子屋ふぁみりあ公開セミナー ―ひきこもりからの脱出―の開催

上記2-(1)の通り、参加者同士の交流を深めることと、プライバシー保護の観点から参加登録制による「寺子屋ふぁみりあ―ひきこもり状態にある当事者の家族(親)のためのセミナー」を開催してきた。一方で、この問題を抱える参加登録者以外の家族(親)からも参加を希望する声が多く寄せられた。ひきこもりの問題について広く一般が関心をもち、ひきこもりの問題について正しく認識することで、ひきこもり当事者および家族への社会一般からの支援の輪が広がることを期待して公開セミナーを開催した。

※日 時＝平成23年3月30日午後1時30分～午後4時30分

※会 場＝築地本願寺講堂

※主 催＝本財団、浄土真宗本願寺派東京教区基幹運動推進委員会

※講 師＝稲葉剛(NPO法人自立生活サポートセンターもやい代表理事)、和田重良(くだけけ生活舎主宰・NPO法人くだけけ会代表)

※内 容＝講師2名がそれぞれ発題として、経済的困窮にある若年層の実態と将来への展望、また、ひきこもり当事者との交流を通じてのひきこもり問題の実態を講義。また、ひきこもり当事者(経験者)による体験談などを通じてひきこもりの問題を考えるもの。

### ④就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝平成22年4月22日/6月24日/10月22日/11月24日/12月21

日／平成23年1月28日／2月25日／3月22日の14時～17時

※会場＝全青協事務局

※内容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業など軽度の作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力および作業スキルの向上を目指す。

#### ⑤相談窓口の設置・運営

1) 不登校やひきこもり、自死念慮など青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。また、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

#### 2) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患などの悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合などに随時面接を行った。

#### ⑥「てらネットEN」世話人会および連絡会議の開催

平成22年度てらネットEN連絡会議を開催し、てらネットENに加盟する寺院・団体の代表者が参加した。

※日時＝平成22年10月6日（水）

※会場＝曹洞宗壇信徒会館（東京グランドホテル）

※議題＝てらネットEN加盟各寺院・団体の活動の現況の報告および今後の活動の方向について

## (2) 海外支援・国際交流の推進

### ① 国際子ども支援プログラムの運営（ぴっぱら国際児童基金）

社団法人全日本仏教婦人連盟と提携し、ワラナシ（ベナレス）等でストリートチルドレンやスラムで暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター（里親）制度の運営を行った。また、サルナートにおける被虐待児童のシェルターの運営を開始。北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。

### ② 海外のエンゲイジド・ブッディストとの交流

台湾やタイに拠点を置き社会活動を実践する仏教系の団体と交流を開始し、仏教思想に基づいた社会活動のあり方について相互の認識を深めた。台北の国立病院でボランティアを行う臨床宗教師の活動について調査し、日本への導入に関して検討を行った。また、ミャンマーの政治難民に対する仏教的な支援活動についても検討を加えた。



### (3) INEB 東アジア大会開催

全青協では、日本におけるエンゲイジド・ブディズム（社会参加型仏教）のあり方を考えるため、エンゲイジド・ブディズム研究会を開催してきた。平成22年度は、特に INEB（International Network of Engaged Buddhists）の東アジア大会を4月初頭に開催した。これは、韓国・台湾・日本で社会活動に参加する仏教者の現状について互いに報告し合い、三国の連携のもとに今後の具体的なエンゲイジド・ブディズムの方向性を探るための企画である。孝道教団、浄土宗平和協会、アユス仏教国際協力ネットワーク等との協働事業。

※日 程＝平成22年4月4日～4月7日

※会 場＝東京都中央区・本願寺築地別院他

### (4) 子どもたちのホームレス問題理解についてのキャンペーン協力

浄土宗社会慈業委員会「ひとさじの会」が進める「子どもたちのホームレス問題理解についてのキャンペーン」に協力した。特に7月25日に開催されたシンポジウムについて、企画・運営面で協力し、当日の講師の出講も併せて行った。

※日 程＝平成22年7月25日（日）

※会 場＝東京都港区・増上寺三縁ホール

※講 師＝北村年子（フリージャーナリスト）、清野賢司（TENOHAAHI 事務局長）、高瀬顕功（ひとさじの会）、神仁（全青協）

### (5) 浄土宗報恩明照会「命とこころの電話相談室」開設事業協力

浄土宗報恩明照会が「命とこころの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力を行った。特に研修に関しては、講座の内容および講師の選定、全青協スタッフの出講を含めて全面的に協力した。

※開設日程＝平成23年4月4日～（以降毎週月曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

## 3 墨蹟事業

### (1) 第43回現代名僧墨蹟展の開催

全国5会場で開催。現代仏教界を代表する各宗派管長、大本山貫首、布教師をはじめ、本会の活動の趣旨に賛同していただく文化人、著名人など約200名の協力を得て、直筆の掛け軸、額、色紙、短冊などを展示、希望者に頒布し、純益を青少年教化活動の基金に充てた。併せて、会場では本会発行の機関誌『ぴっばら』を配布するなどして本会活動の広報、会員拡充に努めた。また、墨蹟法語を行い、墨蹟の意義の理解と仏教宣布・青少年教化の普及に努めた。

※開催会場：

東京上野会場	松坂屋上野店	平成22年6月2日（水）～6月8日（火）
山口会場	山口井筒屋	平成22年9月16日（木）～6月20日（月）
静岡会場	松坂屋静岡店	平成22年10月27日（水）～11月2日（火）

東京銀座会場      ギャラリー ノア      平成22年12月16日(水)～12月22日(火)  
 名古屋会場      松坂屋名古屋店      平成23年2月2日(水)～2月8日(火)

※共催団体＝読売新聞中部支社、静岡県東部青少年教化協議会（開催会場により異なる）

※後援団体＝読売新聞東京本社、読売新聞西部本社、報知新聞社、日本テレビ放送網、山口放送、中京テレビ放送、静岡第一テレビ（開催会場により異なる）

※推薦団体＝全日本仏教会、東京都仏教連合会

## 4 出版事業

### (1) 機関誌『ぴっばら』の発行状況

#### ①月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数
5-6	6,200	7-8	8,400	9-10	7,700
11-12	6,200	1-2	6,600	3-4	6,700

年間発行部数 41,800部  
 平均発行部数 7,000部

#### ②『ぴっばら』「特集」テーマ一覧

月	テ ー マ
5-6	笑顔の家族をつくるために ー働く女性の実情とワーク・ライフ・バランス
7-8	「ひきこもり」の現状と支援 ー訪問サポートの現場から
9-10	問うてみませんか？ 家庭の場 ー子どもが生活体験から学ぶこと
11-12	第1回仏教教化事例発表大会 ー仏教を社会に活かす実践者の連帯
1-2	発達障害とひきこもり ー発達障害がある人の社会における生きにくさから支援を考える
3-4	すべての家庭に希望を！ ー困難を抱えた家庭への支援とは

### (2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少幼年向けの各種教材を発行。花まつりぬりえ、風船、ポスター、そして甘茶クッキーなどを頒布した。また、新規教材として花まつりシールを制作・頒布した。

#### ①教材の発行

##### A) 既存教材の増刷

※『おぼんってなあに』＝3,000部

※花まつり手提げ袋＝14,010枚

#### ②教材等の製作

##### A) 甘茶クッキー

花まつりにちなみ、甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行なう

NPO法人)と共同開発し頒布した。

B) 花まつりシール

花まつりをにぎやかに飾る教材として、全青協制定の「6つの願い」をベースに、花まつり解説付きの「花まつりシール」新規制作・頒布した。

③書籍の発行

A) 『10代の子を持つ親が知っておきたいこと』(紀伊國屋書店)発行

『ぴっばら』において3年にわたって連載されてきた水島広子氏の「思春期のこころ」を一冊にまとめ、加筆を加えて紀伊國屋書店から出版した。

## II 表彰事業(公益目的事業2)

### (1) 『正力松太郎賞』の実施

①「第34回正力松太郎賞」の表彰

※表彰式=平成22年5月17日(月)

※会場=東京都港区・曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

※受賞者[本賞]=○長谷川実彰師[真言宗智山派大智院住職/愛知県知多市]

○岩国演劇研究会「劇団のんた」[代表・藤谷光信師/浄土真宗本願寺派教蓮寺前住職/山口県岩国市]

[青年奨励賞]=○子どもの寺 童楽寺[救世観音宗童楽寺住職/和歌山県伊都郡]

②「第35回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成22年9月公募開始、同年12月15日締め切り。

※選考会日時=平成23年3月8日(火)

※選考会場=東京都港区・曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

本賞2件、青年奨励賞1件、奨励賞5件が下記のように決定。

※受賞者[本賞]=○禿川瑛子師[浄土真宗本願寺派真行寺前坊守/福岡県田川郡]

○NPO法人 鎌倉てらこや[代表・池田雅之氏/早稲田大学教授/神奈川県鎌倉市]

[青年奨励賞]=○根本紹徹師[臨濟宗妙心寺派大禅寺住職/岐阜県関市]

[奨励賞]=○今里晃玄師[浄土真宗本願寺派教専寺住職/香川県坂出市]

○中西玄禮師[浄土宗西山禅林寺派管長/兵庫県姫路市]

○杉の子こども会[代表/角出好隆師/浄土宗長泉寺住職/三重県伊賀市]

○仙法志明照園日曜学校[代表・工藤浄真師/浄土宗専称寺住職/北海道利尻郡]

○アジア仏教徒協会 ASIAFUND「ABA ミャンマー子ども基金」[代表・  
茨木兆輝師／曹洞宗西蓮寺東堂／長崎県佐世保市]

※後援＝読売新聞東京本社、日本テレビ放送網、よみうりランド、報知新聞社

※表彰式＝平成23年5月31日（火）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

## （2）表彰の実施

青少年に関する活動を行っている各種仏教団体等主催表彰事業への協力

①曹洞宗主催「第44回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。

②大正大学書道研究部主催「第59回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。

③炎天寺一茶まつり委員会主催「平成22年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

## III 臨床仏教研究所運営事業（公益目的事業3）

平成20年3月に設立した財団付属の臨床仏教研究所の定例研究会を「一般人の宗教意識」をテーマとして毎月開催し、併せて「一般人の寺院・葬儀等に関する意識調査」に基づく調査分析を行った。また、10月には「第1回仏教教化事例発表大会」を開催した。

### （1）一般人を対象とした宗教や寺院に対する意識調査の分析

平成22年3月に実施した「一般人の寺院・葬儀等に関する意識調査」について、心理学・社会的な観点から定例研究会において分析作業を行った。

### （2）第一回仏教教化事例発表大会の企画・運営

「第1回仏教教化事例発表大会」の開催に際し、研究所理事および研究員が企画・運営・講演を行った。「有縁社会の創造」をテーマに、青少幼年教化活動をはじめ、お寺の内外で公益的活動に積極的に取り組んでいる僧侶や寺院関係者に活動内容や理念、具体的方策等をご発表いただき、今後の寺院のあり方を模索する方々のご参考としていただく機会とした。

※日時＝平成22年10月5日（火）

※会場＝曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※内容＝○基調発題：奈良康明（臨床仏教研究所理事・駒澤大学名誉教授）

○分科会（教化事例発表・第I会場～第III会場、発表者計27名）

○全体会・総括 ○交流会 ※参加者約150名

### （3）研究紀要・書籍の発行

教化事例発表大会の発表内容を踏まえて、「有縁社会の創造」をテーマに、理事・研究員・大会発表者の寄稿により、研究紀要としての臨床仏教叢書2を刊行すべく、執筆・編集作業を行った。

臨床仏教叢書2『無縁社会から有縁社会へ（仮）』（研究紀要）の刊行

内容＝発題「バラバラ社会からツナガリ社会へ」奈良康明

論文「つながりの社会に生きる」 斎藤昭俊  
「仏教者の自己と他者とのかかわり」 石上善應  
「仏教教化事業を支える諸師に賛辞を贈る」 渡邊寶陽  
「仏教者による社会活動の可能性」 島菌進  
「スピリチュアルなつながり」 鈴木晋怜  
「個人の個の尊重と社会の無縁化」 小谷みどり  
「台湾の公共的仏教」 ジョナサン・ワッツ  
「傾聴ボランティアによるつながりの回復」 神 仁  
ほか

出版社＝白馬社

部 数＝２０００部

#### IV 災害支援事業（公益目的事業４）

国内外の自然災害に際して緊急支援事業および継続的な支援プロジェクトを行った。

##### （１）パキスタン・インド ラダック地方大洪水災害緊急支援事業

パキスタン・インド ラダック地方で起こった大洪水に際して、会員などを対象に緊急救援基金を呼びかけた。パキスタンにおいては、「社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）」等と共に、被災地の小学校へ黒板や机・文具などを提供した。インド ラダック地方においては、現地のラムドン・モデルスクールの要請に応じて、被災した子どもたちの制服や文房具、ベッドや布団などの寝具を提供した。被災し親を失った児童に対しては、ぴっばら国際児童基金の活動の一環として、里親プログラムによって今後も支援を継続していく。

#### V 管理

##### （１）組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。また、各宗派の教化研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。１７年度に全青協の活動財源を支えていただく特別賛助会員制度を新設し、２２年度も引き続き広く協力を募った。会員数は平成２３年３月末日現在、１０８２名。内訳は「会員」５０８名、「活動会員」３１０名、「賛助会員」２３２名、「特別賛助会員」３２名。

##### （２）公益認定申請

平成２０年１２月１日に施行されたいわゆる公益法人改革関連３法のもとで、平成２３年度中に公益認定申請を行うべく準備作業を進めた。